

- ① 公的空間を含む建物内外などの官民領域やデジタル・リアルを横断した高度化されたサービスの提供
- ② 来街者やワーカーに対するエリアとして総合的・一体的なサービスの提供
- ③ 上記①②を実現するために必要なエリマネデジタルツインの整備

実証事業に関する目標 (KPI)

指標	目標値	目標年度
アプリ利用者によるサービス閲覧平均数	3	R8
通行者の量と滞在時間	前年度より増	R8

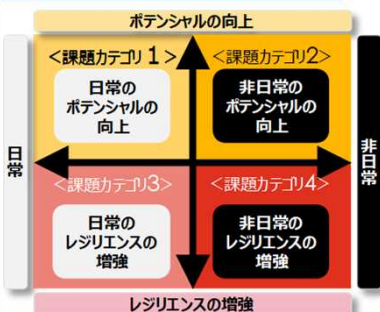
実行計画 「エリアマネジメントのデジタルトランスフォーメーション」モデルの実現

2030年のSDGs達成に向け、都心の成熟した持続可能な発展を、イノベーションとテクノロジーによる仕組みの再編・構築により、エリアマネジメント・公民協力で実現するため、大丸有スマートシティ実行計画及び実行計画詳細版を策定。

1. 時代をリードする国際的なビジネスのまち
2. 人々が集まり賑わいと文化のあるまち
3. 情報交流・発信のまち
4. 風格と活力が調和するまち
5. 便利で快適に歩けるまち
6. 環境と共生する持続可能なまち
7. 安全・安心なまち
8. **新技術やデータを活用するスマートなまち**
9. 地域、行政、来街者が協力して育てるまち



■ 区域の発展的課題



■ エリマネDXの実現

・発展的課題が対応する各領域の取組に関する更なるサービスの高度化、総合的・一体的なサービス提供  
 ・エコシステムの形成による持続的発展的な体制の構築と一体的なサービス提供。そのためエリマネデジタルツインの仕組みの構築による区域の発展的課題の解決に向けたエリマネDXの実装。

実証事業の内容

高度化・一体化されたサービスの提供 (エリマネの表側/フロントエンド)

- ① 分野横断的、官民領域やデジタル・リアルを横断した高度化されたサービスを提供できるよう、アプリ等を通じたイベントやモビリティなどに関する総合的なサービスをワーカー・来街者に対して提供。

エリマネデジタルツインの構築 (エリマネの裏側/バックエンド)

- ② ①の実現に向け、エリア情報集約、合意形成効率化、エリマネ運営高度化に資するような建物や人流等の公的空間を含めたエリアのモニタリングシステムを構築、エリアマネジメントの可視化を行う。

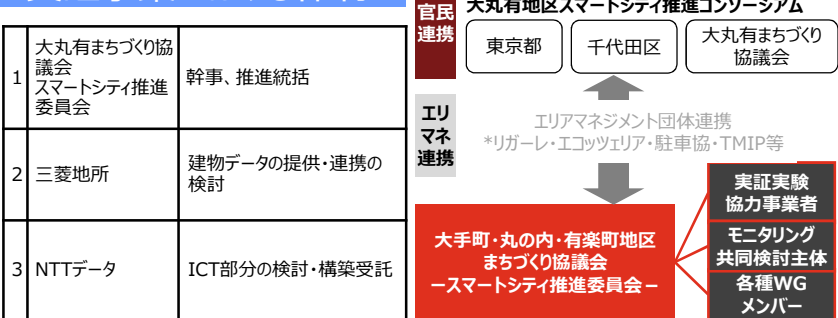
事業概念図



エリマネDX実現による来街者等の一体的なサービス提供イメージ



実証事業における体制



実証事業から実装までのスケジュール

	R5	R6	R7
高度化・一体化されたサービス提供	対象サービス追加	対象サービス追加 レコメンドの実装・実証	複数サービス連鎖機能の実装・実証
エリマネデジタルツイン構築	ベータ版構築 カメラ連携	可視化対象・エリア拡大 BIM連携・Plateau連携	可視化対象・エリア拡大 エリアオーバーレイ追加 機能実装

## 中央通りを中心としたデジタル時空間（ストック）マネジメント

実行計画に記載されている取組のうち、特に令和5年度に整備される**中央通り沿いのパブリックスペースの利活用、公共交通の利用促進およびバーチャル空間を活用したコミュニティ形成に資する取り組み**を優先的に実証する。

## 実証事業に関する目標（KPI） ※一部

KPI（抜粋）	基準値（R4.11時点）	目標値（R8年度）
中心市街地の歩行者数	50,021人（休日） （主要8地点）	62,400人（休日） （主要8地点）

## 実行計画(全体)

四日市スマートリージョン・コア  
～都市軸と新たな「市（賑わい）」の創出～


現在、四日市市中心市街地においては、まちなかの回遊性向上による賑わいの展開、都市の魅力・暮らしの質の向上、交流人口の増加、防災機能の向上などが課題とされている。これらの課題解決を目指して、四日市スマートリージョン・コア実行計画の目標を『都市軸と新たな「市（賑わい）」の創出』と設定。中央通り再編やバスタ整備という新たな都市軸の整備を契機として、新たな「市」では、市民や企業の積極的なまちづくり参加を促し、ウォーカブルな中心市街地の実現、新たな交流や価値の創出を目指す。

スマート図書館    スマートバスタ    商店街活性化    ウェルネス環境    災害に強いまち



スマート街路灯    パブリックスペース利活用    デリバリーサービス    メタバース    マルチモビリティ

## 実証事業の内容

実証事業の種類	概要
① 利活用空間活性化ツールの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>人流計測用のAIカメラ（スマート・インフラ）と情報発信用のデジタルサイネージの整備</li> <li>取得したデータを視覚化するダッシュボードの構築</li> <li>3者向けのサービス開発（混雑状況などの情報発信など市民向け、マーケティング情報など事業者向け、施策の効果把握など行政向け）</li> </ul> 
② 四日市版 MaaS(Phase-1) の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動運転バスやパーソナルモビリティなども含めた総合的な公共交通予約決済サービスの構築</li> <li>将来的に駐車場、ホテル、レストラン等の予約システムとの連携を見据えた「MaaS×街歩き」サービスの展開</li> </ul> 
③ バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の「メタバースYOKKAICHI」のPLATEAUデータを活用したアップデート</li> <li>バーチャル空間上におけるアバターを活用した市民間の意見交換、集約機会の創出、サービス化</li> </ul> 
④ 中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング/マネジメント・ツールの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>PLATEAUを活用した中央通りのデジタルインフラ台帳構築</li> <li>データ利活用による中央通り公共空間及び施設計画の最適化ツールの構築</li> </ul> 

## 実証事業における体制

### 四日市スマートリージョン・コア推進協議会

- ① 利活用空間活性化ツールの構築
- ② 四日市版MaaS構築
- ③ バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築
- ④ 3D都市モデルを活用したプランニング/マネジメント・ツールの構築

四日市市

(株)CTY

(株)マクニカ

早稲田大学  
(株)FIXER

## 実証事業から実装までのスケジュール

	R5	R6	R7	
①	先行街区におけるスマート・インフラ実装 ダッシュボード検討	スマート・インフラの調整、 各種サービスの構築		実装
②	社会実験（デジタルスタンプラリー等）	交通検索システム導入	外部サービス連携	実装
③	メタバースアップデート	イベント等開催、フィードバック		実装
④	仕様等検討	各街区において順次導入		実装

# 【福島県会津若松市】命を守るデジタル防災プロジェクト事業

(都市空間マネジメントの高度化を見据えた街のマイクロ情報の拡充によるデジタル防災高度化)

デジタル防災アプリの災害時における危険箇所の投稿権限の範囲選定・拡張をすることで、危険箇所データの充実化、危険箇所を避けた避難ルート表示を可能とし、住民の安全な避難支援および個別避難計画策定（避難ルート作成）の効率化へ繋げる。

## 目標 (KPI)

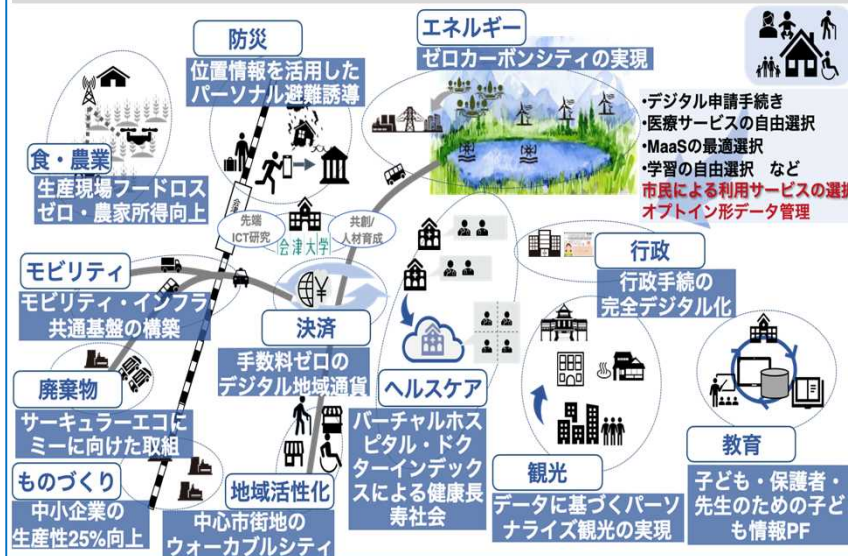
本事業は、計画全体KPIの一つである『地域ID登録者数の増加』に資するものと整理

KPI	KGI/KPI		基準値	目標値 (2030年度)
	地域ID登録者数	24,000ID (2022年度末時点)	50,000ID	
公示地価の伸び率	地方平均比+1.5% (2013年~2023年)	地方平均比+7% (2020年~2030年)		
経常収支比率	85.6%(2021年度)	90%以下の維持		

## 実行計画 (全体)

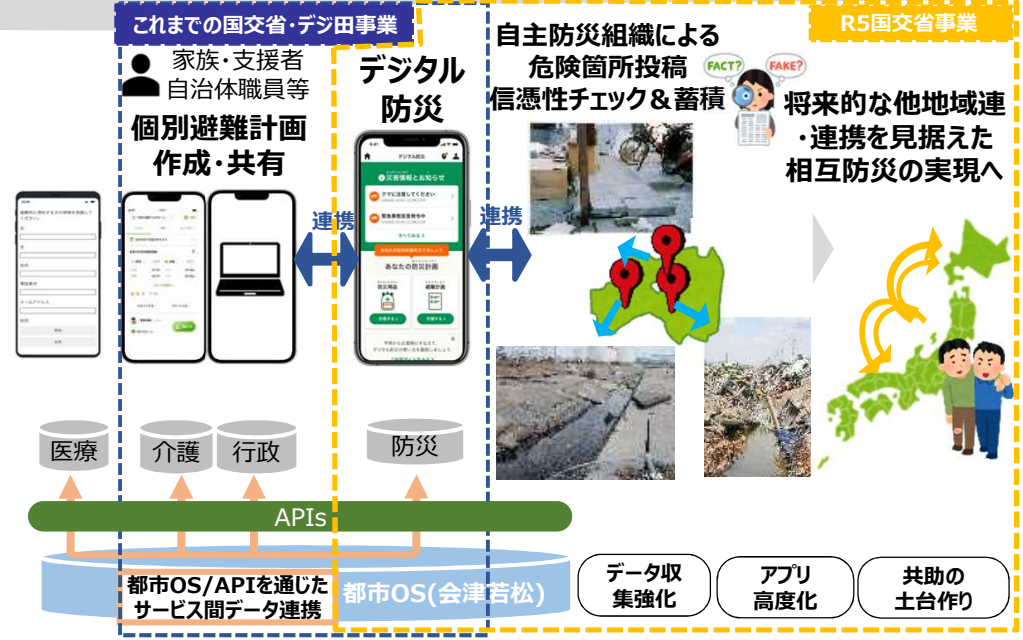
### スマートシティ構想の全体概要

12の分野において、多様な利用者を意識した包括的かつ包摂的なデジタル化を推進。また都市OS上での分野間連携を前提に推進。



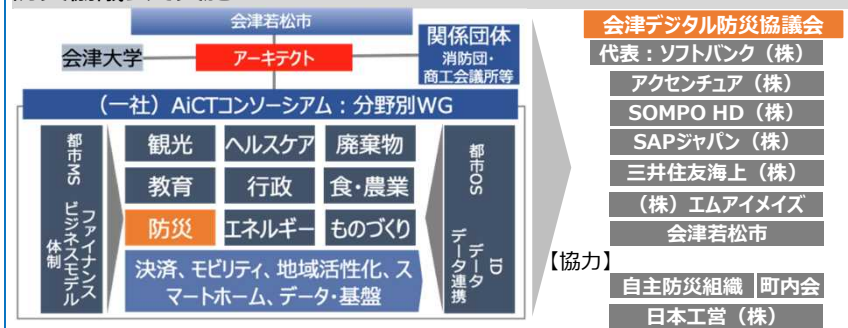
## 実証事業の内容

より地域に根差した共助の観点からデジタル防災アプリにおける①災害時危険個所の投稿権限を自主防災組織へ拡張し、②避難ルート表示の高度化、個別避難計画策定効率化を実現しつつ③データの信憑性を含めた投稿権限の範囲における知見を蓄積するための実証を行う。また日常的な防災マップの利用を促進することでデジタル防災アプリの利用頻度向上も図る。

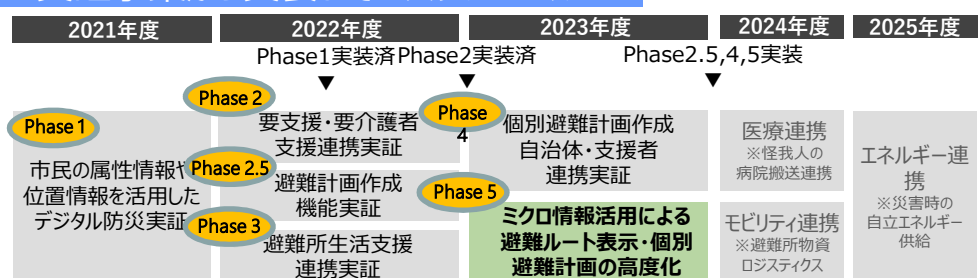


## 実証事業における体制

体制は以下の通り、本事業は、防災WG関連主体で構成した会津デジタル防災協議会で実施。



## 実証事業から実装までのスケジュール



# 【埼玉県さいたま市】スマート・ターミナル・シティさいたま

駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境(スマート・ターミナル・シティ)の形成に向け、**ラストワンマイルのパーソナルな移動手段の多様化**を図るため、市内および他都市へ展開・実装された「シェアサイクル」に「シェアスクーター」「**超小型EV**」を加えたサービスの**実装(R6目標)**、特定小型原付(小型電動スクーターなど)等新たな**モビリティの拡充・実装(R7目標)**を進める。

## 実証事業に関する目標 (KPI)

	現況値(R4年度)	目標値(R5年度)
シェアサイクル利用回数	100%	110%
シェアスクーター・超小型EV利用回数	100%	110%

## 実行計画(全体)

**「市民のウェルビーイングな暮らしを実現する(スマートシティさいたま)」の実現に向け、駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を構築。**

**施策①** 〈モビリティサービスの充実〉により、健康で環境にやさしい脱クルマ依存型生活行動を支え、地域回遊性を高めるとともに、

**施策②** モビリティと地域経済活動が連携した〈ライフサポート型MaaSの構築〉を進め、

**施策③** 各種サービスデータや都市データを活用した〈スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成〉を促進する。

### 【先行モデル地区】

- **中心市街地型モデル** (高密度エリア・商業業務地ゾーン)  
→大宮駅・さいたま新都心駅周辺地区
- **郊外住宅地型モデル** (中高密度エリア・住宅地ゾーン)  
→美園地区

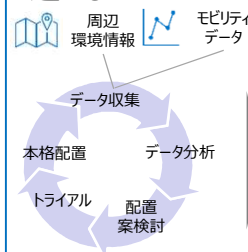
先行モデル地区での  
実践・成果を  
市内他地区等へ横展開

## 実証事業の内容

### 利用者増加に向けたエリア拡張とステーション配置の最適化(スマートプランニング)

・モビリティサービスの充実に向け、**シェアサイクル・シェアスクーター・超小型EV等のモビリティサービスの実装**を目指している。

・本実証では、**R6年度の実装**に向けて利用者増加を図るため、**モビリティから取得したGPSデータ等を活用し、市全域へのエリア拡張とステーション配置の最適化**を進める。



シェアモビリティの実装・拡張

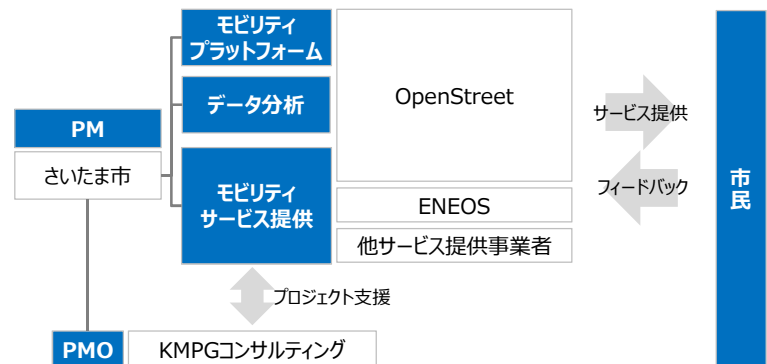


市内シェアサイクル利用状況 (GPSデータから作成)



多様な移動手段を選択できるステーションイメージ

## 実証事業における体制



## 実証事業から実装までのスケジュール

取組	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
シェア型マルチモビリティ (ラストワンマイルの多様化)	実証実験 (中心市街地) シェアサイクル+スクーター+超小型EV		実証エリア拡張・最適化 既存データ分析	実装	他都市への展開・連携
MaaSの構築	モード間連携・地域経済連携				
ウォーカブルな都市空間・環境の形成 (スマートプランニング)	スマートプランニング高度化				

# 【千葉県柏市】街と病院情報システムの連携事業

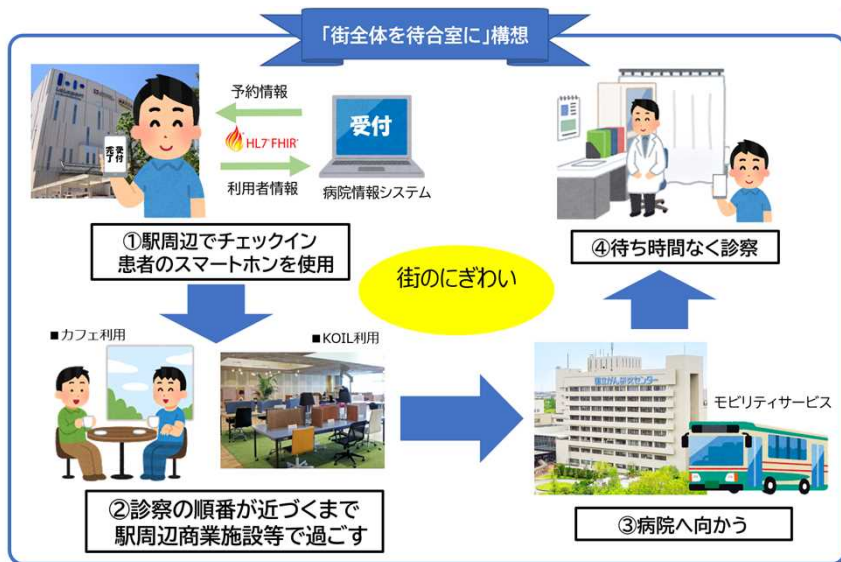
院内課題である待ち時間の軽減を解決する遠隔チェックインサービスの活用と、院内業務の効率化に加え施設や移動など、まちのインフラと連携した仕組みに発展させる分野横断型のシステムを構築する。

## 実証事業に関する目標 (KPI)

- ・利用者数：30人 (R5年)、100名/日 (R7年)
- ・院内コスト削減算出：6000万円 (R9年～次期システム更新時に削減)
- ・まちの情報連携数：6 (R5年)

## 実行計画(全体)

病院情報システムと連携した患者さんの行動最適化の仕組みの拡張と街の施設（カフェやコワーキングスペース）との情報連携を行う。



## 実証事業の内容

### A：技術開発分野

#### ①病院情報システムとの連携

医療データを変換できる標準規格 (HL7 FHIR) を活用し、病院情報システムとのデータ連携による遠隔チェックインのサービス改善。これまでより多くの実患者での実証を行う。

#### ②遠隔チェックインアプリ改修・新規開発

R3で実施した予約情報の標準規格によるアプリケーション連携による情報取得アルゴリズムの改修と新規開発。デザイン (UI) の改修と新規開発。

### B：街との連携分野

#### ③まちの情報との連携

待ち場所として商業施設やコワーキングスペースなど、柏の葉キャンパスの街の情報をアプリ内に実装する。待ち時間を街で快適に過ごしてもらう回遊性を高める。

#### ④標準規格 (HL7 FHIR) でのデータ連携検討会の実施

- ・スマートシティ参画企業のサービスや都市OSとの連携について協議し連携の可能性について検討する。
- ・再来機レスを実現するための院内運用に関して検討を行う。

## 実証事業における体制

まちとの連携に向けた検討会運営主体

UDCK / NCCE / 株式会社nemuli

【病院情報システム (HL7 FHIR) 提供】

国立がん研究センター東病院

【遠隔チェックインアプリ改修業務】

nemuli株式会社

## 実証事業から実装までのスケジュール

R3	R4	R5		R6	R7
		6月～10月	11月～3月		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔チェックインシステム構築</li> <li>・FHIRデータ連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院情報システムFHIR環境構築</li> <li>・遠隔チェックインアプリ改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街のサービスとの連携・拡大検討</li> <li>・対象を拡大して患者に試用</li> <li>・受付レス運用を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他サービスとの連携拡大</li> <li>・病院アプリとの機能連携検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業モデルの確立、アプリの実装</li> <li>・様々な施設との連携</li> </ul>	

# 【東京都大田区】羽田空港跡地第1ゾーン整備事業（第一期事業）

生産年齢人口の減少に対応するための生産性向上や新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえた非接触サービスの提供の必要性から、ロボットによる業務代替やサービス提供の社会的要請が高まっている。これに応えるためにロボットのシームレスな移動の実現や様々なニーズに対応できる適応力が求められる。本実証実験では、**ロボットサービスの実装に向けた技術的課題・サービス課題の解決**を目指す。

## 目標 (KPI)

令和7年度目標

中目標	小目標
ロボットサービス利用者満足度 : 80%	ロボット導入数 : 10種・50台
業務効率化率 : 現状比20%減	ロボットによる代替業務数 : 10業務

## 実行計画（全体）

空間情報データ連携基盤「3D K-Field」(=サイバー空間)を構築の上、先端技術を活用したサービスの区域内への実装(2023年度以降)、新たなサービス・ビジネスモデルの大田区全域をはじめとした全国への横展開を目指す(2024年度以降)。

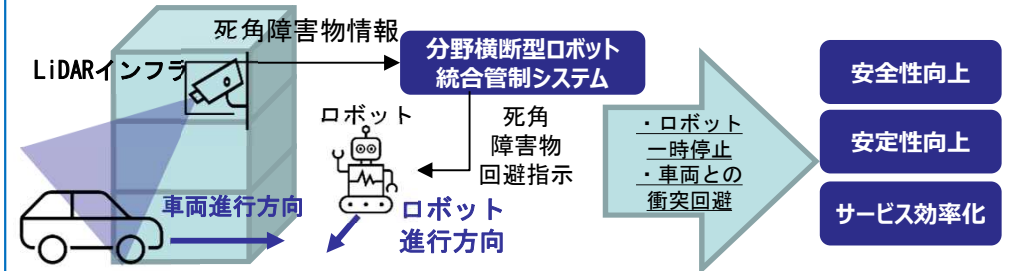
### 仮想空間(デジタル上の都市)



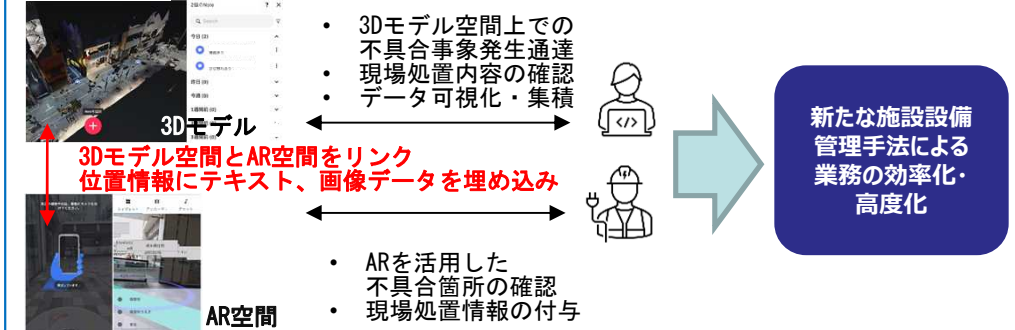
## 実証事業の内容

スマートロボティクス技術による利便性向上や業務支援・代替の実現を目的とした異業種ロボットの導入に向けた技術面・運用面の課題解決を図ることを目的に、以下の実証を実施。

### ①汎用性・発展性を考慮したロボット走行の安定性・安全性向上



### ②空間情報を活用した新たな施設設備管理の実現



## 実証事業における体制

### 羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会

大田区(都市管理者)	実行計画推進・モニタリング			
羽田みらい開発(株)・鹿島建設(株)	全体統括			
(株)日本総合研究所	調整・とりまとめ			
分野横断型統合管制システム SolidSurface(同)	デリバリー・配送ロボット SolidSurface(株) SBSロジコム(株)	デジタルツイン×AR (株)GATARI	システム・ロボットユーザー 鹿島建物(株) アラコム(株)	LiDARインフラ連携 (株)ハイパーデジタルツイン

実証実験・実装スケジュール	R5			R6	R7
	2Q	3Q	4Q		
実証実験設計					
実験環境構築					
実証実験実施					
とりまとめ					
ロボット走行安定性向上				技術調整	実装
新たな施設設備管理				運用実装	横展開

# 【東京都渋谷区】FUNコンテンツの作成&基盤データ活用事業

本実証は、快適な都市空間や賑わい創出を通じた都市の回遊性向上に向け、来街者や区民が賑わいを認知・参加・長時間滞在できるためのFunコンテンツ生成や空間活用PF環境整備を図ることで渋谷の「カオス」を再定義する取組みである。

## 実証事業に関する目標 (KPI)

	R5	R6	R7
イベント実行数(累計)	1回	4回	9回
イベント協賛社獲得数	15社	30社	50社
満足度調査(5段階)	3.5	3.7	3.9

## 実行計画(全体)

\* ①は初年度、②③は次年度以降

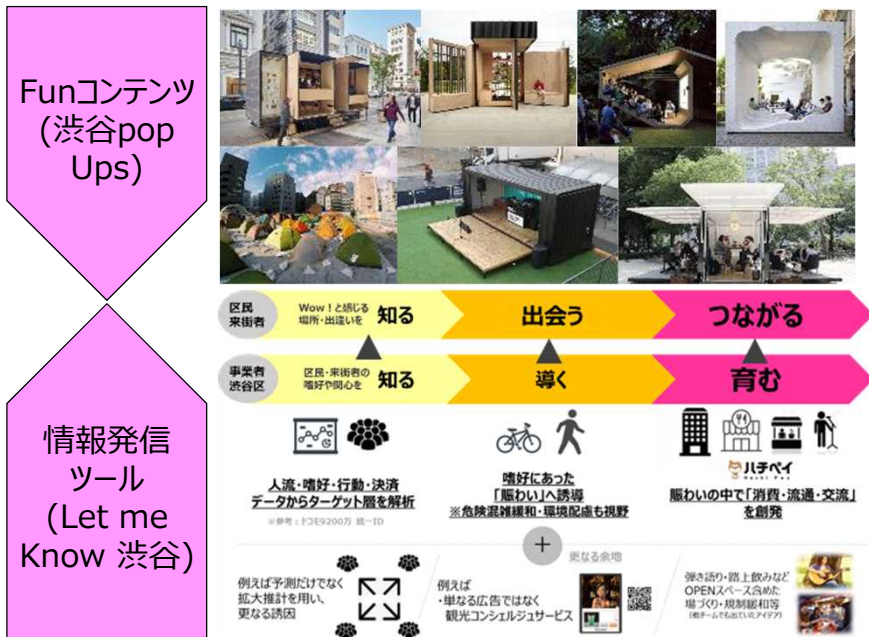
渋谷での賑わい創出・回遊性向上に向け、下記取組を行う。

- ① 人流や嗜好・行動等各種データに基づくイベントの実験的開催、及びWeb等でのイベント誘導を行うモデル構築
- ② データ連携基盤や空間活用プラットフォームとも連携した多角的なイベント企画・開催や誘導による余剰空間の活用拡張
- ③ イベントスペースマッチングシステム構築を通じたイベント創発 等



## 実証事業の内容

来街者の嗜好や行動遷移を元にイベント企画及び来街者をスポットへ誘導する情報発信ツールを制作し、特定エリア内での滞在時間の向上、来街者の行動変容を促すことで、賑わい創出・都市の回遊性向上の効果検証・施策検討を行う。



## 実証事業における体制



## 実証事業から実装までのスケジュール

	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
Funコンテンツ	イベント実施(実証)	イベント実施(実証)	イベント実施(定例化)
情報発信ツール	情報発信ツール構築(実証)	情報発信ツール機能追加(実証)	PF実装、イベント創発

# 【新潟県新潟市】スマート・プランニングによる、まちなかコンテンツ最適化事業

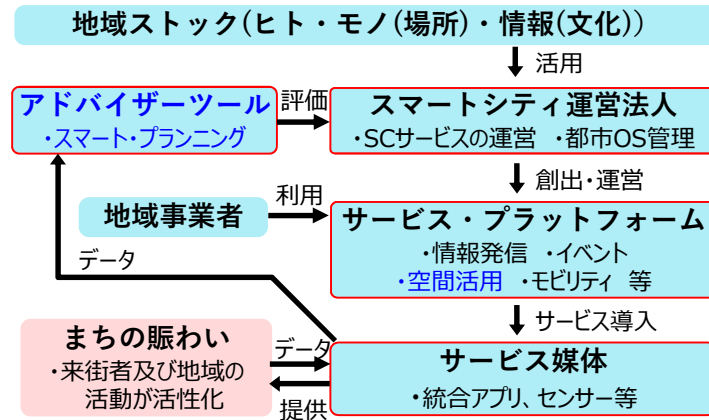
- ・まちなかの活性化を図るため、随所でスポット的な賑わい創出施策が展開される中、各スポットの相乗効果により、まちなか全体の回遊性向上につなげていくことが課題。
- ・本事業により、賑わいスポットの創出と連動した人流データを取得し、賑わいスポットの最適配置が検討可能な回遊シミュレーションツールの実装により、効果的な施策検討に活用する。

KPI	目標値(R7年度)
来街者一人あたり立寄箇所数	2.5箇所以上
空間活用PFの活用により実施されたコンテンツ数	30以上

## 実行計画(全体)

- ・地域に潜在する価値「ヒト・モノ（場所）・情報（文化）」を活性化する「データ利活用インフラ」と「サービス・プラットフォーム」の実装により、地域と来街者の交流を促すクリエイティブシティを産官学民の連携により実現する。

※□：実行計画で実装 ※青字：本事業で実施



## 実証事業の内容

- ・まちなかの大規模イベント参加者を対象に、
  - ・スマホアプリを活用し、まちなかにおける行動データを取得
  - ・賑わいスポット創出施策の有無による行動変容や波及効果を分析・モデル化
  - ・構築した行動モデルを回遊シミュレーションツールに反映
- 次年度以降に実施する賑わい施策の最適化検討に活用

### ■ 実証事業の全体像



### ■ 取得する人流データのイメージ

- ・アプリのチェックイン機能により、賑わいスポットへの立寄が判別可能な一連の人流データを取得



### ■ 分析・シミュレーションモデルの構築

#### 人流・行動特性分析の着目点

- 賑わいスポットの創出により、立寄がどの程度生じるか
- 賑わいスポットの創出により、主要動線からのにじみ出し(波及行動)がどの程度生じるか
- 複数箇所の立寄(回遊継続)が生じやすい条件の抽出
- ※属性、立寄箇所の間隔、時刻、経過時間、施策ジャンルなど

#### 賑わいスポットの配置に応じた回遊性の変化をシミュレーション可能なツールを構築(既存ツールの改良)

ツールを活用し、居心地よく歩きたくなる賑わいのあるまちなかの実現を目指す

## 実証事業における体制

新潟市スマートシティ協議会 (計42団体)

### 本事業実施体制



- ・全体コーディネート
- ・賑わいスポットの創出
- ・実証結果とりまとめ
- ・スマート・プランニング活用・改良



・まちづくりと施策との連携・調整  
※都市政策部都市計画課が担当

## 実証事業から実装までのスケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度
実証実施・シミュレーション改良	継続的なデータ取得・シミュレーション改良	本格実装(地域連携等に活用)



# 【石川県加賀市】AIオンデマンドの導入と遊休車両の活用による地域社会における移動課題解決実証

利便性の向上による公共交通の利用促進と効率性の向上による継続的な運行の確保を図るため、**AI技術を活用した移動の自由度・効率性の向上と各事業連携による自家用有償運送によるアジャイル送迎**を組み合わせ、加賀市全域の移動手段の強化を行う。

## 実証事業に関する目標 (KPI)

KPI	基準値(R5.3末)	目標値 (R7年度)
AIオンデマンド バス利用者数	15,246人/年	約23,400人/年 ※代替前利用数×1.5

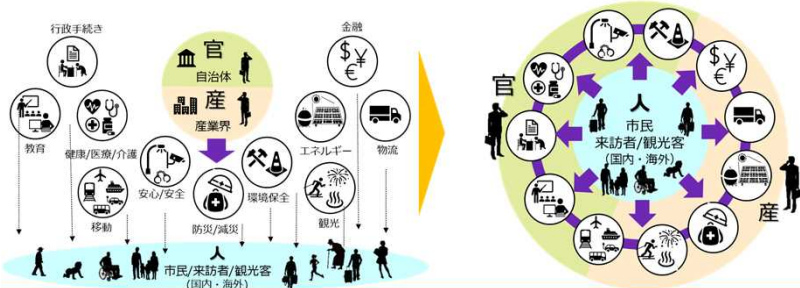
## 実行計画(全体)

### スマートシティで目指す方向性

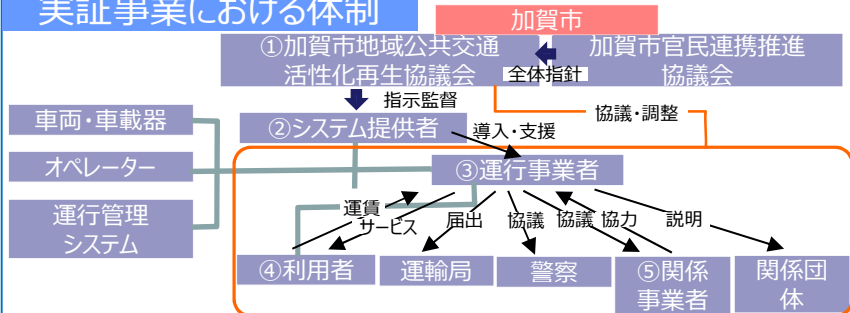
- ◆ スマート化による住民の生活の質の向上
  - ・先端技術を活用した地域課題の解決により、市民の生活の質の向上を図る。
  - ・イノベーションを推進し、新たなサービスモデル構築。市民がワクワクする社会を構築。
- ◆ スマート化による来訪者の満足度向上
  - ・必要なサービスを時間や場所を問わず、最適な形で利用できる環境を構築。
  - ・魅力的なライフスタイルを提供し、楽しく、働きやすく住みやすい環境を整える。
- ◆ スマート化による稼働力の向上
  - ・先端技術を活用し、加賀市全体の稼働力を強化する。
  - ・データを最大化に活用し、イノベーションエコシステムを構築し新たなビジネス創出する。

行政主体の個別分野最適化のまちづくり

人間中心に全体最適化された公民連携によるまちづくり



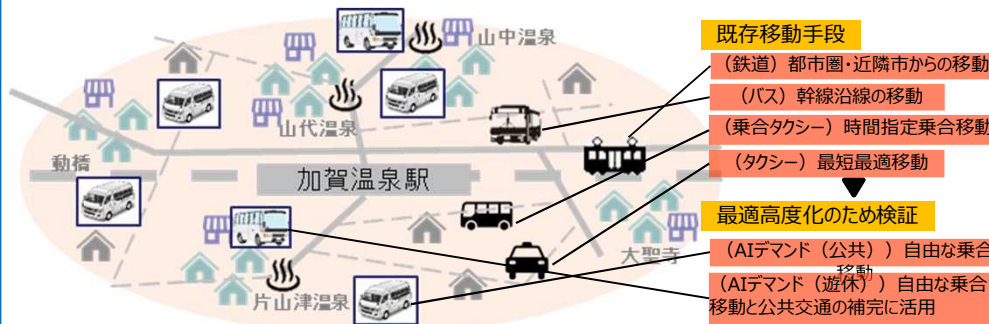
## 実証事業における体制



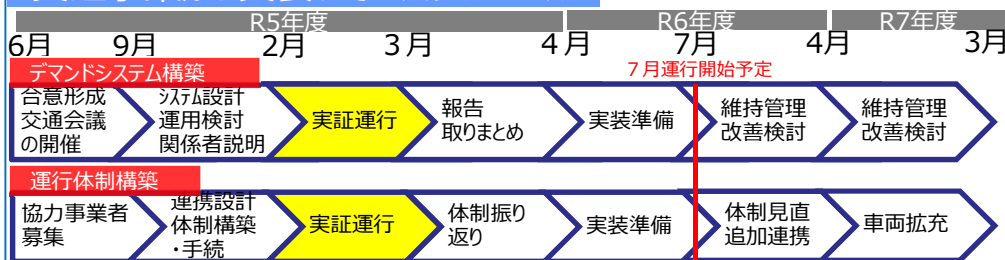
①協議会が交通のスマートシティ化に取り組む主体として計画及び実施を推進。②システム提供会社は③運行事業者が設備の導入から運用までスムーズな移行と、運用に向けた各種支援を行う。③運行事業者は各種調整及び④利用者に対する実際の輸送サービスを担い、また⑤関連事業者と連携し遊休車両の利活用を行う。

## 実証事業の内容

- (1)交通手段の役割の明確化と最適高度化された移動の検証  
鉄道・路線バス・デマンド交通の役割に基づいた体制を構築しAIによる最適高度化
- (2)遊休車両の活用による柔軟な運行と担い手不足の効果検証  
遊休車両（旅館・企業・介護等の非稼働時間の車両・運転手）をデマンドに活用
- (3)MaaS・その他基盤との連携による利便性の向上  
MaaSアプリ等連携を想定。相互利用を促進し1.5倍の利用数を目指す
- (4)(1)~(3)の一体的な運営モデルの構築と検証  
他のドライバー不足に悩む地方の先駆事例なるよう運行モデルを構築



## 実証事業から実装までのスケジュール



# 【愛知県岡崎市】リアルタイムデータ制御デジタルサイネージマルチ活用事業

今後工事が予定される駅の利便性向上と、駅からまちへ人流創出にむけて、リアルタイムデータを活用したデジタルサイネージのマルチ活用実証を行うとともに、実装に向けた検証と取得データの地域活用を行う。

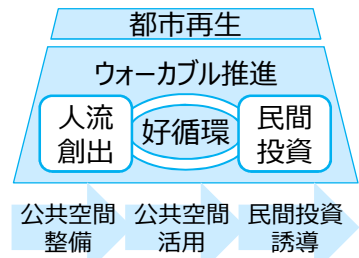
## 実証事業に関する目標 (KPI)

・サイネージ閲覧人数	3,000人	目標時期 R5年度末
・QR誘導人数	350人	
・地域課題検討件数	2件	

## 実行計画(全体)

### 【まちづくり将来像】

まちなかウォーカブル推進で都市再生を加速するため、まちづくり進捗に合わせスマート技術実証・実装に取り組む。



### 【スマートシティ将来像】

人流等をきっかけに都市モニタリングの仕組みを構築し、**都市密度最適化**で健全かつ持続可能な都市の発展を目指す。



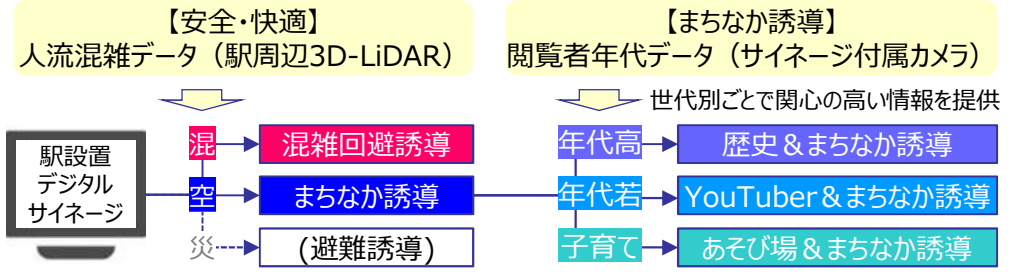
### スマートシティ実現



## 実証事業の内容

リアルタイムデータ活用による人流誘導と取得データ活用による地域課題解決を実証

**課題 1** 安全・快適 : 今後予定される駅の工事期間中もスマートな案内  
まちなか誘導 : 駅からまちへ人流創出



**課題 2** ・デジタルサイネージマルチ活用の実装に向けた検証  
・取得データの他分野における活用

- |          |   |
|----------|---|
| 実装に向けた検証 | <ul style="list-style-type: none"> <li>誘導効果を確認しつつ、参画者拡大策を検討</li> <li>担い手確保や費用負担の考え方を整理</li> </ul>               |
| 他分野データ活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>公共空間(中央緑道)活用マーケットの人流増加検討</li> <li>同イベントの周辺エリア回遊波及に向けたアイキャッチ検証</li> </ul> |

## 実証事業における体制

### 岡崎スマートコミュニティ推進協議会

岡崎市企画課	日本工営株式会社	NTT西日本
デジタル推進課	アドバイザー : 名古屋大学 遠藤准教授	
まちづくり推進課		

## 実証事業から実装までのスケジュール

R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6	R7				
関係者調整						実証機器構成の構築		動作確認		現場実証	実装検証	地域データ活用	報告書とりまとめ	実装課題対応	実装

# 【兵庫県加古川市】誰もが豊かさを享受できる加古川スマートシティ推進事業

周辺自治体との都市間連携により広域防災データ（ワンコイン浸水センサー等）の広域利用等に関する検証を行うとともに、PLATEAUを活用した加古川駅周辺エリアのスマートプランニングやAIカメラによる危険運転検知に係る検証を行う。

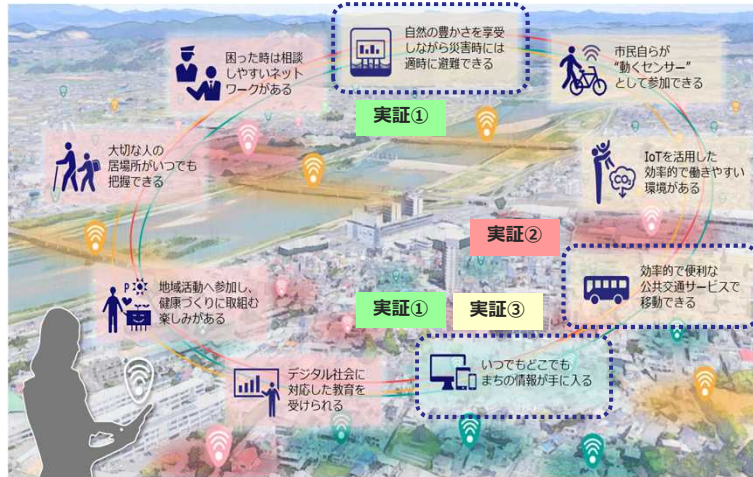
## 実証事業に関する目標（KPI）

- 【実証①】地域の防災体制への満足度 65%(R8年度)
- 【実証②】加古川駅周辺の都市魅力の満足度 60%(同上)
- 【実証③】地域の安全対策への満足度 65%(同上)

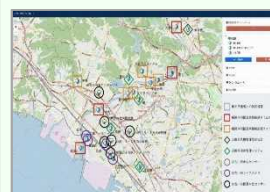


## 実行計画(全体)

誰もが豊かさを享受できるスマートシティ加古川を目指し、見守りサービス等の実装を推進。

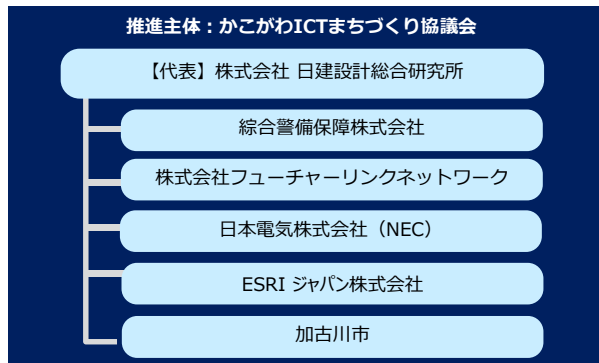
- 1 市民のQOLや利便性を向上するサービス
- 2 都市機能の強化や都市課題の解決
- 3 デジタル行政の推進



## 実証事業の内容

	【実証①】 広域防災データの一元集約化と活用による広域防災力の向上	【実証②】 3D都市モデルを活用した加古川駅前再開発に向けたスマートプランニングへの展開	【実証③】 AIカメラのセンシングデータ(危険運転検知)を活用した次世代見守りサービスの展開
実証概要	広域防災関連データの利活用、都市OS・ダッシュボードの共同利用調査・試行	JR加古川駅前エリアを対象に、3D都市モデルを活用してVRモデルを構築	交差点での危険運転車両の検知・注意喚起、交通事故未然防止対策の関係者協議活用
実証イメージ	国、県、市の防災に関する関連データ等の一元集約・ダッシュボードでの可視化、都市OS等の共同利用調査・試行 	3D都市モデルに歩行道等の情報を補完し、現況モデルを構築 パースをもとに構築した将来モデル(案)と現況モデルを統合し、VRモデルを構築 	交差点にて、AIカメラで事故リスクの高いスポットのデータを取得、都市OSへ格納、分析・検証 交通対策に向けた関係者協議への活用 
	ダッシュボードでの可視化イメージ	既往再開発パースイメージ	AI高度化カメライメージ

## 実証事業における体制



## 実証事業から実装までのスケジュール

	～R4	R5上期	R5下期	R6	R7	
実証①	ワンコインセンサー設置等	実証自治体募集	実証実施・ダッシュボード強化	成果取りまとめ	関係者調整、サービス開始	
実証②	再開発パース	現況/将来モデル構築	VRモデルチューニング		継続実証	サービス開始
実証③	AI高度化カメラ(交通量計測)	設置場所検討	設置		データ分析・可視化	継続実証

# 【和歌山県すさみ町】観光拠点・防災道の駅中心の複数分野における高度化・自動化学業

南海トラフ地震や大雨等のリスク、高齢化・人口減の人手不足、災害発生前後の観光客への情報発信等の課題解決のため、**PLATEAU/3次元地図のドローン等への活用及びポータル等による的確な情報発信**を実施し、**安心安全で快適な町づくりを推進**する。

## 実証事業に関する目標 (KPI)

KPI	基準値 (R5.6末)	目標値 (R5年度末)
ドローン-航路設定 工数効率化	2~3営業日	3時間前後
住民防災意識向上	計測前	防災イベント参加者が 非参加者より30%以上向上

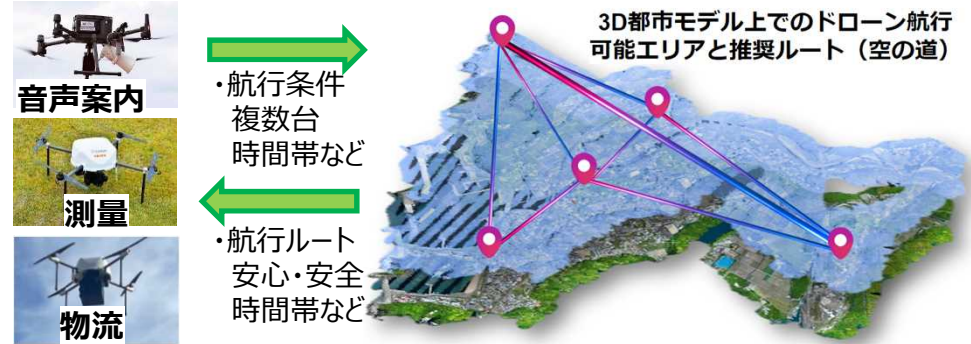
## 実行計画(全体)

有事・防災分野における「大災害への備え」、平時・観光分野における「観光立町推進」を、ICT技術を活用したデジタル化・自動化・効率化により推進する。



## 実証事業の内容

**実証技術①**：平時・有事でのドローン活用を**PLATEAUデータ**を用いて「飛行可能区域」「訓練エリア」「複数台航行での航路」を事前設定する運用を検証

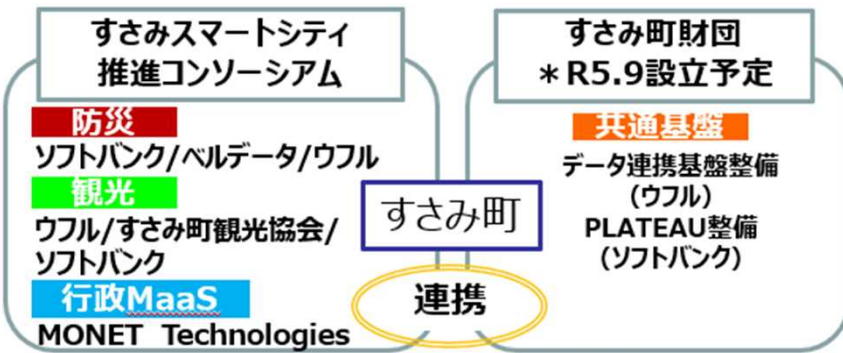


**実証技術②**：PLATEAUを用いた避難訓練実施  
GPSを持った避難者の位置情報を取得し、避難場所時間と津波シミュレーションを重ね合わせ住民参加型イベントにて検証



## 実証事業における体制

すさみスマートシティ推進コンソーシアム  
新設予定すさみ町財団にて事業推進



## 実証事業から実装までのスケジュール

・R6から部分的な実装開始を目指し事業を推進

	R5年度	R6年度	R7年度
スマートシティ関連事業			
観光拠点・防災道の駅中心の複数分野における高度化・自動化学業	【防災・観光分野】実証実験	商用開発	社会実装
データ連携基盤	基本設計 試験環境構築	実証基盤構築	社会実装

# 【熊本県荒尾市】位置情報活用によるセキュリティ見守り事業

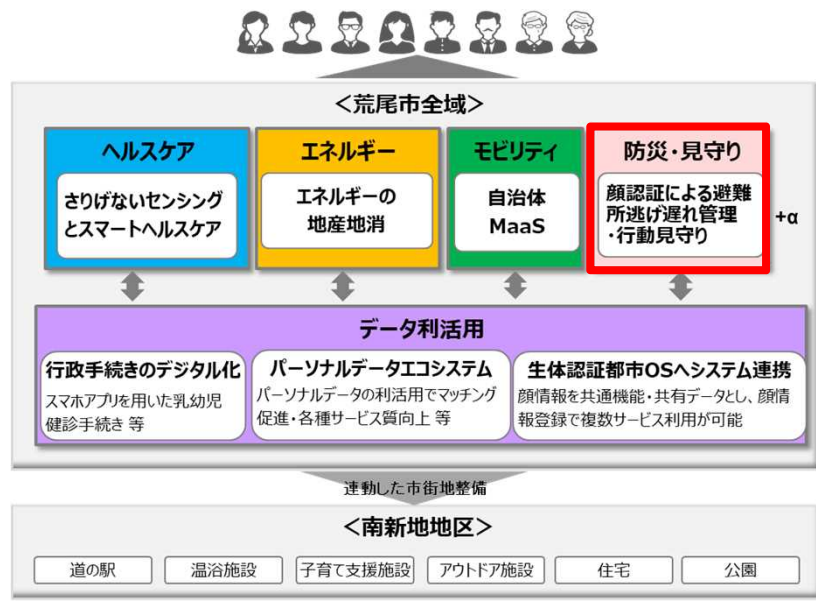
- ・近年の大規模自然災害の増加や登下校途中での見守り対応に対して、マンパワー不足等の社会課題に対して「安全安心なまちづくりに繋がるシステムの構築」を目指す
- ・課題解決にあたり、GIGAスクールタブレットを活用した児童登下校見守りの実証実験(PoT/B)を行い、早期に社会実装するための運用及びビジネススキームを具体化するための活動

## 実証事業に関する目標 (KPI)

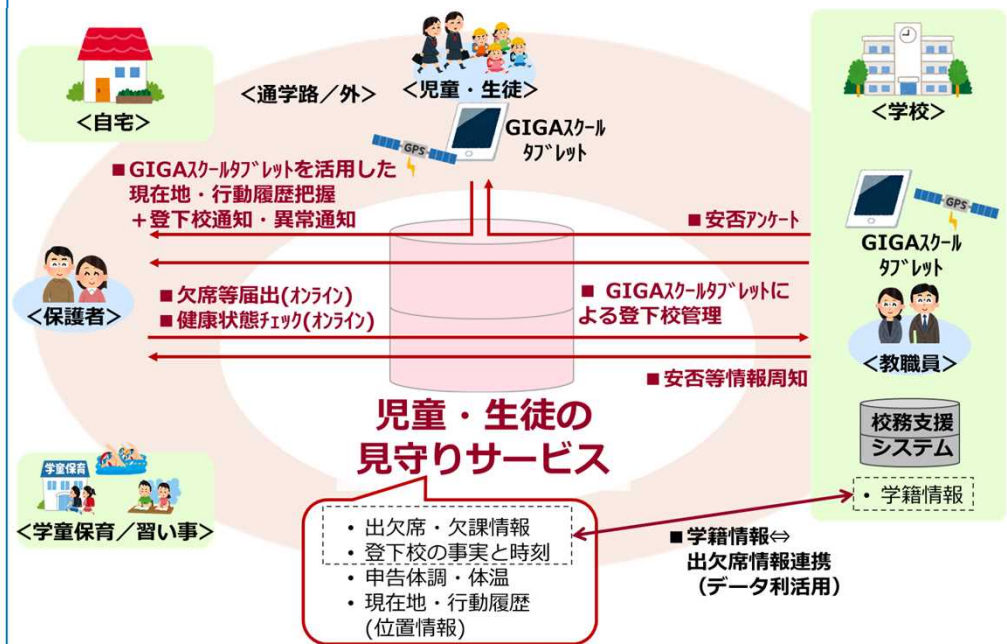
- 2025年度
- ◆見守りサービス導入意向のある自治体割合：70%
  - ◆安全安心につながると感じる保護者割合：80%

## 実行計画(全体)

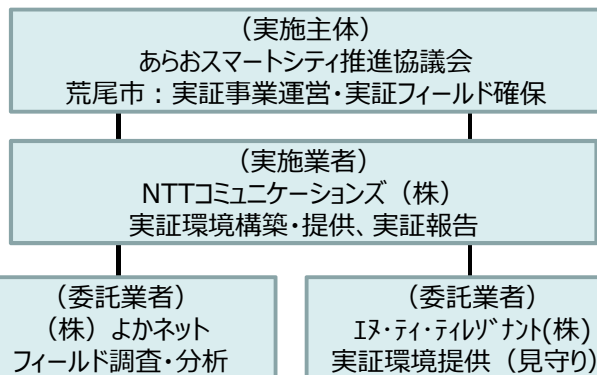
荒尾市民・来訪者・地域事業者



## 実証事業の内容



## 実証事業における体制



## 実証事業から実装までのスケジュール

令和5年度(2023年度)				令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)		
第1Q(4月~6月)	第2Q(7月~9月)	第3Q(10月~12月)	第4Q(1月~3月)				
実装に向けた仮説整理・実証内容検討	実証計画	実証用環境整備・位置情報把握・校務支援連携	中間評価・改善	実証準備・フィールド実証	アンケート調査ヒアリング報告とりまとめ	評価・モデル校での実装判断 (荒尾市)	本格運用・改良 (他都市への横展開)